

■田中芳男 殖産官僚。駒場農学校・大日本農会・山林会・水産会・博物館の創設など、産業振興の基礎をつくった。

たなかよしお
適塾ホブソ 1838＝ 信州飯田の一面にあった天領の千村で、陣屋の医師田中隆三(如水)の三男に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝ 9歳：

ペリー来航・ 1853＝15歳：

松下村塾・ ・ 1856＝18歳：尾張の名古屋に出、伊藤圭介の門に入り、本草学の勉強に打ち込む。
名古屋の本草会嘗百社にも参加した。

桜田門外変・ 1860＝22歳：
遣欧使節・ ・ 1861＝23歳：藩書調所物産学教授出役を命ぜられた伊藤圭介に従い、助手格で出役、
生麦事件・ ・ 1862＝24歳：伊藤圭介の伴をして、横浜にシーボルトを訪ねる。西洋医学所の薬草園の管理も託されるが、学問的検討の余裕もない、殖産興業策の注文ばかりで即応できず、圭介は病気を理由に辞職し、名古屋へ帰ってしまい、後始末を任せられる。

8月18日政変 1863＝25歳：フランスから送付された球根と種子110品を植え、目録も作成。チューリップ、ヒヤシンス、西洋水仙などが含まれていた。

薩摩藩士密航1865＝27歳：*物産所(開成所に設置されたもの)で舶来植物の調査栽培を行う。舶来のアマ、薬草のジギタリス、サルビアを試育、次年には米国産リンゴを栽培、苗木を青森など各地へ送り栽培を奨めた。飯田市には彼のリンゴへの功績を記念しリンゴ並木が設けられている。

薩長同盟・ ・ 1866＝28歳：パリ万博に参同することになった幕府が、主催側の注文で日本の昆虫標本を出品することになり、採集から陳列まで任せられ、その責務を果たす。

明治維新・ ・ 1868＝30歳：*新政府より開成所御用掛を命ぜられる。(明治月刊)を発行する。
初の日刊新聞1870＝32歳：大学出仕を命ぜられ、太政官委任。物産局を起こすべく命を受け、設計を行い、新築する。殖産興業の発展を計るため、博覧会開設の必要性を主唱。

廃藩置県・ ・ 1871＝31歳：富士山へ植物採取のため登山。新設の文部省に出仕し、博物掛をつとめる。
学問のすすめ1872＝34歳：*ウィーン万国博覧会出品担当となり、以後多くの博覧会事業による殖産興業に尽力する。「林檎氏植物綱目表」と「姪甘度爾列氏植物自然分科表」を訳述紹介、「泰西訓蒙図解」を編纂し、文部省より出版。

明治6年政変 1873＝35歳：ウィーン万国博覧会へ一級事務官として派遣され、金鯱等展示する。
佐賀の乱・ ・ 1874＝36歳：農事修学場・駒場農学校(東大農学部の前身)設置案を起草。ドイツ人プロムメ原著の哺乳動物部を邦訳して、「動物学初編」を出版、「動物訓蒙初編」を著わした。
初の民間工場1875＝37歳：上野を整備して動物園及び博物館を建設するため、佐野常民等と調査する。

西南戦争・ ・ 1877＝39歳：飯沼慾斎「増訂草木図説」など、江戸時代出版されなかった博物学書を刊行したことも功績である。
・ ・ ・ ・ ・ 1880＝42歳：第1回内国勲業博覧会開催。内国勲業博覧会審査官を命ぜられる。
明治14年政変1881＝43歳：第2回内国勲業博覧会開催。大日本農会を創立し幹事となる。この年新設された農商務省の大書記官・農務局長兼博物局事務取扱を命ぜられる。大日本水産会創立に参画、

新体詩抄・ ・ 1882＝44歳：大日本山林会を創立し幹事となる。上野公園に博物館竣工し館長となる。開園した動物園設立にも尽力、
岩倉具視没・ 1883＝45歳：*農商務省を退職。
内閣発足・ ・ 1885＝47歳：大日本農会幹事長に就任。東京学士院会員に選ばれる。
帝国憲法発布1889＝51歳：第3回内国勲業博覧会審査官。
帝国議会始・ 1890＝52歳：帝国議会発布に際して、貴族院議員に勅撰される。伊勢神宮外苑に農業博物館建設を委任される。
大本教・ ・ ・ 1892＝54歳：

日清戦争始・ 1894＝56歳：大日本山林会幹事長に就任。

松隈内閣・ ・ 1896＝58歳：大日本水産会幹事長に就任。
八幡製鉄始・ 1897＝59歳：従三位。

田中正造直訴1901＝63歳：

日露戦争終・ 1905＝67歳：
満鉄発足・ ・ 1906＝68歳：勲一等瑞宝章を授与され、帝国学士院会員となり、

韓国併合・ ・ 1910＝72歳：

明治天皇没・ 1912＝74歳：田中芳男七六展が開催され、

第一次大戦始1914＝76歳：男爵を授かる。

民本主義・ ・ 1916＝78歳：東京本郷の自宅で没した。